

逸品

～エントランス無料企画展示～

齋宮歴史博物館

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川 503
TEL:0596-52-3800(代表) FAX:0596-52-3724
E-mail:saiku@pref.mie.lg.jp
https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/saiku/

逸品展とは、当館エントランスホールにて、齋宮秘蔵のお宝を一品ずつ掘り下げてご紹介する展示です。

第2回 博物館学芸員をめざす学生たちが企画した展示です！

期間：令和4年8月28日(日)～12月22日(木)



▲ 左から、能面「尉」、石帯、瓦経

今年度は、3つの資料の中から1点を選んで展示します。「尉」は翁を表す能面で、齋宮が舞台の能「絵馬」でも用いられます。石帯は石の飾りが付いたベルトのこと。瓦経は、経典が刻まれた瓦で、極楽往生への願いを託されました。何が展示されるかは、当日までのお楽しみです。どうぞご期待ください。

第3回 遣唐使が運んだ鏡？ — 下園東区画出土の銅鏡片 —

期間：令和4年12月24日(土)～令和5年3月19日(日)

齋宮跡が国の史跡に指定された昭和54年に、タテ約5cm、ヨコ約4.5cmの銅鏡の破片が出土しました。外縁が八枚の花弁状になり、鏡の背面に鳳凰とみられる鳥の尾と、唐草文の一部が鑄出され、その成分分析から中国の唐の時代のものと考えられます。なぜ唐の鏡が齋宮にもたらされたのか？そのナゾにせまります。

史跡齋宮跡出土 唐鏡 ▶



第4回 Made in 明和町—江戸時代の土器づくり—

期間：令和5年3月21日(火・祝)～5月21日(日)



▲ 史跡齋宮跡出土 茶釜形土器

明和町は、伊勢神宮に仕えた齋王が暮らした齋宮が所在したほかにも、現在でも伊勢神宮の祭祀で使用される土器が作られるなど、伊勢神宮との関係が深い地域です。明和町における土器作りは、古代より盛んであったことが発掘調査により明らかになるなど、まさに1,000年程続く長い歴史があります。

今回は、史跡齋宮跡から出土した、明和町蓑村で作られた江戸時代の土師器をご紹介します。